

工 太 同窓会 報

第 13 号

昭和58年11月20日
群馬県立
太田工業高等学校
同 窓 会
0276(45)4742

同窓会々員の皆様へ

副会長 関 省三

同窓会々員の皆様方におかれましては、益々ご健勝にて、社会人として、学生として、御活躍の事と、ご推察申し上げます。

同窓会も昭和40年生まれの18才であり、会員の皆様方も、社会人としての仕事、学生としての勉学又、家庭に帰れば夫として、父親として本当に忙しい毎日であろうと思ひます。

そういつたひとつの生活のリズムのなかに、同窓会を加えるという事はなかなか難しい点があるのでしょう。時によれば私達役員にしてもそういう状況になり、それが、各種役員会への出席率となっていると考へます。

同窓会とはいったいなにか？ 何の為にあるのか？ 考へてみようではありませんか。

そして是非共必要性を感じて頂きたいのです。同窓会の活動と

して、会員の為になる事は当然の事として、忘れてならないのは、母校発展の為の活動があると思ひます。将来方向として、同窓会館設立という大きな課題を考へ、各方面より検討をしています。各の会館が、会員相互の親睦を図る場として、在校生の各種会合及びクラブ活動の合宿の場として、効果を發揮出来る施設になると思ひます。昭和37年4月創部以来多くの先輩達が夢見た甲子園出場を果たした、野球部の為、会員皆様方には、寄附金集め、応援と大変御苦労をかけ、御努力を頂きました。過去の会報で、会員名簿の充実、支部組織の充実等を課題として御報告してまいりましたが、今回の後輩達への支援活動を通じて、忘れかけていた「太田工業高校」を思い起した事と思ひます。

この機会に「同窓会」に對しまして、今后より一層の会員皆様方の御支援、御協力を、お願い申し上げます。

一年回顧

校長 狩野徳司

月・日の経つことは、洵、流れる水のようにです。

昨年、この会報を借りて、着任の挨拶を述べたのが昨日のように思ひ出されます。

この一年間、会社で、役所で、工場で、いろいろなところで、いろいろな機会に多数の同窓生の皆さんにお会いすることが出来ました。工場で先端技術の担い手として開発を進めている方がた、行政の中核として地域の人々と接触しておられる方がた、生産現場で生産の原動力となつて働いておられる方がた、何れも本校卒業の矜持を持って逞しく活躍されてました。頼もしい限りです。

本校創立以来の二十余年の歳月を思ひますと、こうして皆さんが努力されているからこそ、次第に太工が地域の工業高校として、不動の基礎を固めていくことが出来るものと思ひます。

さて、今年はまだ一つ本校に對して記念すべき快挙がありました。それは申しあげざるまでもなく、この夏野球部が念願の甲子園出場を果たしたことです。

夏の県内大会はノースード。それが却つて幸し、選手が全力を尽しながらしかも伸び伸びと戦い勝利を握んだと言われました。

併し、好運だけで勝つことは出来ません。そこには、部長・監督選手の諸君が一丸となつて精進したことを忘れてはなりません。

甲子園出場が決つた直後、初代校長の嶋岡先生が早速駆け付けてくださいました。先生は我がことの様子に喜ばれ酔を輝しながら、その昔、第一期生の諸君と草花々のグラウンドを整地しながら、何時かこのグラウンドから甲子園出場選手を出そうよと語り合つた思い出を語られました。今でもそのときの感動は忘れられません。

それにしても、同窓生の皆さんがこの大会に寄せてくださった数々の御支援は大変なものでした。紙上を借りて厚く御礼申し上げます。

甲子園であげたあの大喝声は、本校歴史の流れの一駒として深く皆さんの脳裡に刻まれることと思ひます。

悠々たる時の流れの中に、大きく生成していく本校同窓会の姿を垣間見ながら、更に皆さんの活躍を期待している今日この頃です。

創世期を回顧して

岩崎 昇

人は人生の歴史の一ピリオドで最初と終末の事象だけは鮮明に脳裡にきざまれるものである。

たとえば小学校の六年の生活を回顧すると一年時六年時の教師の言行出来事のすべてが今なほ明確に記憶に残っております。とくに最初の事象こそ忘れ難いものです。私達をはじめ本校へ登校したのは鳥山地区にあった廃校されたばかりの金山学園での仮校舎で、建物は老朽化し校地は荒廃しクラブ活動はおろか授業にも支障さえあった。しかし職員生徒集団の精神的新鮮さ活力は躍如たるものがあり、しかも職員生徒の心底はどんな生活学習の悪環境にあっても伝統ある既設校に追いつき追い越せの強力な意欲気迫が漲りその生活学習活動によく具視され真剣そのもので現今から理解するのは困難である。

ものである。仮校舎での数ヶ月の生活こそ本校の創世期の有意義な一時期であつたらう。当時としては最もユニークで近代的な校舎建設の構想も着手されたばかりで原野に立つ竜骨のようなものだった。しかしその中で生活は職員生徒達の大きな心の支えであり、燈火でもあつたようだった。

通学の不便きわまりない仮校舎での生活も一学期でほぼ終らし、大望の当校舎への移転は二学期早々行われたが、現在のキャンパスは雑草が生い茂りその中に本館と校舎の三分の一が完成していたに過ぎなかった。第一期生の苦難な生活はこれからはじまったのです。実習工場の建設もようやく着手されたばかりで実習の授業は座学が中心で授業の進行上不都合な面が非常に大きかつたようだった。このような事情で実習体育の授業の大半は除草整地工事現場の整理にあてられたものです。人力も限界に達し自衛隊市役所の積極的な協力で整地用の大型車が導入されその威力の偉大さに驚嘆し、その偉大な力の源泉を創造する場となる責任と期待を痛感したわけです。このような生徒を取りまく悪環境はかえって生徒の向上への意欲を高めたようである。クラブ活動学習の成果

も目立つものがあつた。運動部の県大会の成果も高い評価を受け、とくに工業科の標準テストでは県内で最高位の成績をあげ意を強くしたものであった。即ち教育的効果を生み出す要因は教師・生徒集団の意欲がすべてに優先することを立証した。当時行われる学校行事はすべて新しく未経験なものでその一つ一つが学校の歴史を形成するものだから職員生徒の英知を駆使した熟考と配慮を必要とした。事にあつて多面的な考察が有効的な結果を招来したものであった。

実習工場の建設は予期以上急速に進行したが、体育館の建設は遅々として進まず、はたして一期生の在学中での使用が可能なのか懸念されたので生徒達は率先して放課後など資材運搬にあたり、フロッワーの取り付けはほとんど生徒達の手によるもので現在の体育館は生徒達のほこりにまみれた汗の結晶とも云えよう。忘れ難い建造物の一つであろう。当時職員生徒の心の奥底には学校の歴史の創始者たる自覚と意識がみなぎり、それが創造の辛苦に堪え得る力を生み出したのだらう。

何んといつても三年間の苦難の生活の結実的な結果は生徒達の期待する未来の幸福に通ずる進路決定

なので学校長をはじめとする職員生徒の取り組みは真剣そのもので労を惜まない努力は大きかつた。そもそも本校の設立は高度経済成長に即応したものであつたが、当時各企業の従業員採用にあたってまだ指定校制度があり新設の学校卒業生の受け入れにはきわめて消極的に採用試験に参加することすら非常に困難であつた。まず職員が東奔西走して会社訪問をしてその機会を見出しそれから調査書作成というパターンで現在のように会社からの学校訪問が相つゞ時代からはとても想像も出来ないことである。生徒達も与えられた僅かの機会を取り逃すまいと真剣に取り組み、日頃の習練の結果を十分に発揮し我々の予期する以上の成績をもたらしたものである。今日各企業での本校卒業生の高い評価は実にバイオニヤ精神に満ちた血と汗の結晶であると云つても過言ではない。二十一年の時の流れは本校に大きな変改をもたらした、学校全体の気質も雰囲気も随分変化している。時にはノスタルジアさえ感ずることもあるが、今回野球部の甲子園出場と云う快着を達成したことは本校の最も偉大な歴史上の一ページとなるだらう。またこれが本校の発展的な転機となるように心から希望するものである。

転任のごあいさつ

伴場 茂

昭和五十八年度より伊勢崎工業高校に転任することになりました。本校が創立されて全学年の生徒が揃った昭和三十九年度より十九年間本校機械科に在職させていただきました。思えばよくこんな長い間転任もせず本校にお世話になれたものだと思っておりますが、偏见到先生方や同窓生の皆さん、その他関係の方々のおかげであると心に銘じております。ほんとうにありがとうございました。

転任までの数年間同窓会の係をやらされましたので、同窓会の役員、林、関、松原、天ヶ谷、大関、木村の皆さんにはほんとうにお世話になりました。役員の方々の勤めが終ってから持たれる本部役員会も今となっては大変懐かしい思い出となっております。役員が仕事の関係で仲々揃わずいらいましたり、とうとう揃わずに会が流れてしまったこともあったりしました。会員と本部との意志の疎通をどうやって図ろうか、総会に相当する常任幹事会の出席数をどうしたらふやせるか、支部創立の促進をどうしたらよいか等話し合っ

たものでした。同窓会報の発行も大きな仕事の一つでした。同窓生の数も五千を超える現在では役員の方々の労苦も大変であると思えますが本校同窓会の発展のために御努力いただきたいと願っております。同窓会員の皆さんも積極的に役員に協力していただき、太工同窓会をもちたててください。

私も伊工に移って一学期が終了したところですが、ようやく学校にも慣れて、元気でやっております。夏休みにはバレー部の合宿にでました。バレーなど全くわからないのですが頭数だけの顧問になったわけです。四〇名の合宿生徒の三度の食事を生徒と一緒に作り、楽しい経験をしました。伊工には東雲会館という立派な同窓会館があつて、夏休み中各部が交替でフルにそれを合宿に利用して部活動の成果をあげています。太工での同窓会の役員会で、将来は同窓会館を作ろうという話が何度もできたが思いだされいます。早く実現できるように願っております。

まとまらないことを思いつくまま書きましたが最後に太田工業高校のご隆盛と同窓会員の皆さんのご活躍を祈っております。

回想

中里昌明

昭和三十七年より新任として勤務させて戴きました。

当時は金山高校での仮校舎でしたが、全員はつらつとしており、すばらしい学校だと着任して思いました。

教室は古く授業中に家主の鳩が飛来して授業が中断する珍事もありました。

新設校は、本館と校舎の一部で実習棟は、桑畑の跡で所々に若芽が覗いており、移転は机・椅子を満載したトラックによるキャラバンであり、同窓生の皆様は、細々と働き汗する顔にも新校舎へ入る感激が伺えました。

又ある時は、後輩を迎える為の校舎建築現場の堰板整理を全職員生徒が長蛇の列になって作業した事もありました。

校庭は、アフリカのサバンナを思わせる草原でしたが、第十二師団の自衛隊の方々によって数日にして体育の授業が出来るようになり、機動力のすばらしさには、職員一同驚嘆致しました。

一方、創設期の就職については、先輩諸校と対等にならず、夏季休

暇・現業実習の名で各企業に在校生が一定期間努力し、新設太工魂を理解していただいた訳ですが、結果は皆様方の努力が酬いられ大変好評でした。

学校造りに、職員・生徒が一丸となって目標達成に向っていった姿はすばらしかったです。

今年念願の甲子園へ初陣でしたが、校舎が化粧され、すべてが甲子園へと、創設期の再現のように感じてまいりました。

同窓会では事務局の仕事させられて戴きましたが、思い出は、名簿や会報の発刊と同窓会活動の活性化をどの様にしたら良いか、又支部結成をお願いして、企業内や地域で親睦を深め、さらに発展して戴く事でしたが、目的を十分に達成する事が出来ず残念でした。

未熟者でしたが教職生活の過半を無事に勤めさせて戴きました事も職員の方々や同窓生の皆様方のご厚情と心より感謝申し上げます。私の教師としての母校であり、このすばらしい経験は終生忘れ得ぬ事でしょう。

同窓会も早や二十年を迎え人間では成人され、いよいよこれからが実力を発揮す時期でもありますので、今後のご隆盛を祈念致しまして筆を置かせて戴きます。

社会人になって

十八期卒 星井信二

社会に出るにあたって、日頃ぼんやりしていた私も思いを新たにせざるをえません。卒業、そして就職。卒業こそ人生への門出であり、門出には、それにふさわしい決意が必要です。そのためには、まず、高校の三年間の自分を深く反省しなければなりません。幼い頃、「ありとこおろぎ」の物語を聞かされたことがあります。それは、夏にこおろぎが楽しく遊んでいるときに、ありは、せつせと冬の食糧をたくわえ、ありは寒い冬が来てもうゆうゆうと生活ができるのですが、こおろぎは、お腹をへらしていたたまたまに、せせら笑っていたありたちに助けを求めるといふ話でした。こんな幼い頃に聞いた物語が今の自分にあてはまるような気がします。

私は、どちらかといえば、どうせ就職するのだから：という安易な気持ちで、長い間、学業に専念せず、安易な道に走ってしまったことは、ほんとうに悔いられない気持ちです。「後悔先に立たず」という言葉がありますがまさにその通りでこれから社会に出る後輩

たちには、私のような後悔だけはしてほしくないと思います。しかし後悔し、それを反省し、直していく、この繰返しが人生だと私は思います。そういう意味で、私は今までのことを反省し、ありのようにならざるをえない。これからの人生を生きるつもりです。同窓生のみならず、こおろぎの誘惑に負けないよう頑張ってください。

社会人になって

大隅樹脂工業㈱

十八期卒 新島正夫

太田工業を卒業して、社会人となり一年半が過ぎました。入社して初めて職場の中に入っていった時は、不安な気持ちでいっぱいだったの覚えている。しかし、今では先輩達の温かい雰囲気の中で気持ちも、やわらいできました。

入社の動機は、夜間大学の時間的配慮をしてくれる地元の企業ということでした。そこで、業界でトップの実績がある大隅グループを選びました。

現在、大隅グループは、日本一の、世界でも有数のボタンメーカーとして、高い評価を得るにいたしました。また、大隅は、ファッ

ション産業と深い関係が、ありません。日本のファッションが、本場パリの発表会でも注目される今、服飾資材も大きく世界に飛び立ちリードする時代がやってきたと、思います。

大隅グループは、生産グループ5社と販売グループ2社で形成されています。グループの特徴としては、幅広いボタン素材の原料から販売までの、一貫体制による供給力と商品開発力にあります。

現在、私は、大隅グループの中核である大隅樹脂工業で特殊ユリア樹脂を素材とする、紳士用ボタンの試作サンプルの製作を、行っています。今、やっている仕事は覚えるまでが大変で、まだまだ理解できない所もありますが、積極的な姿勢で取り組んでいくつもりです。

社会人になって感じたことは、社会はあまくないということでした。学校生活が終って、学生時代の試験勉強や宿題から解放された安心ができません。それは対人関係においても、仕事においても、むしろ毎日が試験であり、宿題の連続であると覚悟した方がいいでしょう。

それと、会社に入ったら、何事にもトライする積極的な態度が、

必要だと思っています。そして自分の仕事に誇りと自信が、もてるようになりたいものです。

思い出

十九期 MA 茂木英之

母校を離れて早くも七ヶ月がたとうとしています。楽しかった思い出はたくさんありますが、その中で一番楽しかったのが、部活動のことです。私はあまりスポーツは得意ではありません。ですから、在学中はギター部に入って活動していました。ギター部は、私が入学した時は、まだ部ではありませんでした。そこで部になるために先輩や同級生といっしょにがんばり部になったわけです。部の中では、フォークをやる人、ロックをやる人など、目ざしている音楽は違います。しかし、いったん、二十周年記念祭や文化クラブ発表会などの行事でコンサートがやれるとなると、それらを成功させようと夜おそくまで準備をしたり、練習をしたりしました。そんな、活動の中で、知らなかった先輩や同級生なども友だちになれ、その人たちから、知らなかったこと

分らないことなど、いろいろとおしえてもらい、自分にとってプラスになったことは確かです。

ところで、私は4、5人でグループを組みドンチャカやっています。一曲を一人一人が、ちがう楽器を演奏する、かんだんなようでもとむずかしいのです。ですから、うまくできるとみんなよろこび、音楽っていいなあと感じました。

ところで、コンサートというのは当然、人の前で、歌を聞かせるということ。初めて出た時はみんなあがってしまって、何かなんだかわからなかったことをおぼえています。

このように、仲間といっしょにワイワイ、ガヤガヤやったこと、また、なにか一つのこと熱中してきたことは、本当によかったと思っています。社会に出た今、またこれからも、なにか熱中できる人間でいたいと思います。

韭川地区OB会の紹介

太田市台之郷一一四三

一期卒 大関貞夫

編集委員会より韭川地区OB会の紹介をして欲しいと云う要請を受けましたが、どのように紹介を

してよいか非常に困りました。何かと云うとOB会とは名前ばかりで正式に発足しているわけでもなく、ただアルコールを飲んでさわぐためのOBの集まりですから、アルコールを飲む日時を決める話し合いは簡単に話がまとまります。この集まりのメンバーの人達の顔ぶれは多彩で、洋品店・雑貨店・大工・豆腐店・鉄工業・家電販売店・サラリーマン三名です。OB会の人間関係の特徴はお互いに相手の立場を理解し、先輩と後輩、

定時制と全日制の枠を取り払って自分の利益になることは多いに利用し合える間柄です。又この会の目的はOB会に入って来て同窓会報に接する人が殆んどでしたので、アルコールを媒介として、メンバーの人達が一人でも多くのOBに会報等が届くように努力すること意見が一致しております。そのためにも会員扱いとしてではなく、連絡員扱いとしておりますがなかなか思うように進展しません。本部には十名になりましたら正式に発足します、などと法螺を云ってしまいました。メンバーを紹介したとおり皆様方非常に多忙な方々です。目標をなかなか達成することができません。しかし何とか年内には正式に発足をし本部

へ支部結成の報告ができるように努力をしていきたいと思っております。又韭川地区の方々も地区OB会結成のため御協力下さい。

なお、OB会加入の連絡は大関迄お願いします。

甲子園大会に

出場して

野球部長 小淵輝明

甲子園大会の出場に際して同窓会の皆様には一方ならずお世話様になりました。お蔭様にて選手一同、心置きなくプレーが出来ましたことを恵心よりお礼申し上げます。さて、県大会を勝ち抜き池田高校と対戦するまで色々のことがありました。特に県大会で優勝した時は正直に申して信じられませんでした。しかし、次の瞬間、選手達は小躍りしてグラウンドに飛び出し、手を取り合い、肩をたたき合い、次々に胴上げをし、互いの健闘を称え合っていました。閉会式、涙をこぼす者はいませんでした。が、満面の笑み、美しい表情をしていました。三年間、いや、それ以上の年月、風雨にかかわらずなく練習に明け暮れしてきたこと

が報われたのです。優勝して四日目(八月三日)に大阪入り。途中、国学院高校の野球部員が東京駅の新幹線ホームまで激励に駆けつけてくれました。選手達には思いもよらぬことで感激していました。スポーツを通じての心温まる友情の一コマでした。新大阪駅では阪神の群馬県人会の副会長さんはじめ十余名の方々に迎えて戴き、甲子園大会出場のことの大きさに改めて驚きました。西宮市の宿舎滞在四日目(八月六日)に大阪フェスティバル・ホールで組み合わせ抽選会がありました。その前夜、選出達と三連覇をねらう池田高校と試合ができればと冗談ともつかぬ話をしていました。いよいよ予備抽選、開始。ホールに張りつめた空気が流れる。東ブロックからくじを引き始める。石川主将は「三番」だった。西ブロックで「三番」を引いたのが池田高の江上主将。まさか本抽選では池田高と同じものを引くこともあるまいと思っただけがあるいはという予感もした。相手校が決まるたびにホールがドヨメク。池田高江上君のくじの番号と石川君のものは同じではないか。如何なる巡り合わせか、予感が的中。池田と対戦。太工の選手達はホールが割れんばかりの「ウォ

「叫び声」といふ歓声とも何とも言えぬ叫び声を上げたのでした。それからというものは試合当日までマス・コミの取材攻勢が一段と激しくなり食事すら落着いてとれぬ始末でした。思い返せば甲子園での試合はグラウンド外で決まるようなものなのです。大阪の暑さ、マスコミ攻勢、試合までの滞在の長さ等々にまず勝つことです。それほど周囲の状況は厳しいものでした。太工チームは初出場ということに慣れぬところが多々ありましたが池田高校を相手にしてよく頑張ったと思います。甲子園大会が終わって早や三ヶ月、うだる暑さから秋風が身にしむ頃となり選手達は殆ど全員、進路先も決まり自己を取り戻し高校生活を楽しんでいます。これから十年、二十年と経るに従って今年の夏のことが思い出されることでしょう。そのことがまた尽きることのない滋養となつて人間としてより大きく成長してくれらるものと確信しています。これも皆様の心からなる声援の賜と感謝しています。

それでは今後とも太工野球部発展のためご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

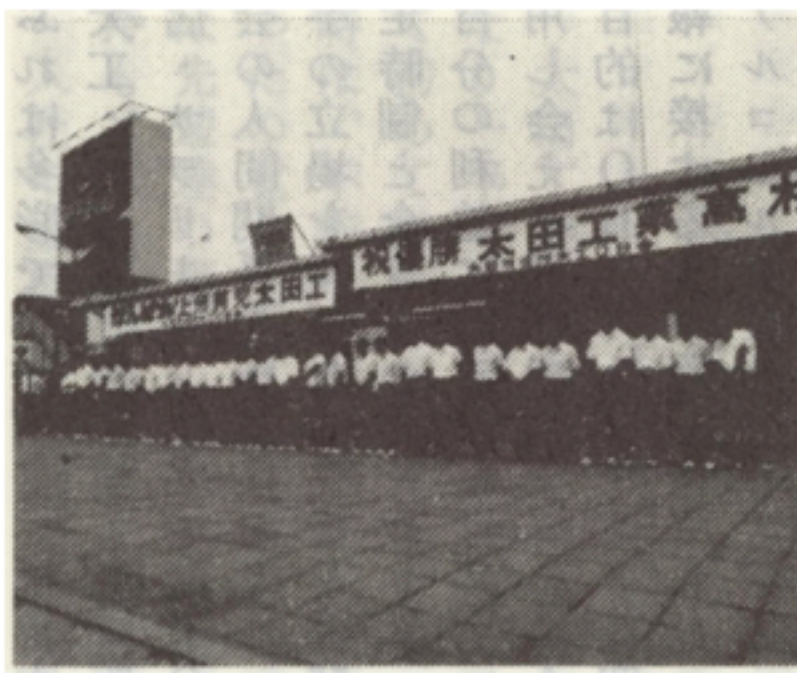
甲子園同行記

工業化学科 伊藤辰夫

本校創立二十二年目にして、初の全国大会出場を決める七月三十日対前工戦で優勝する。

学校や地元の反響は予想以上で出場準備に大わらわ。連日学校へは多くの関係者が集まり、夜遅くまで会議が開かれていた。

八月三日、選手出発の日太田駅南口にて盛大な壮行会のもと、八



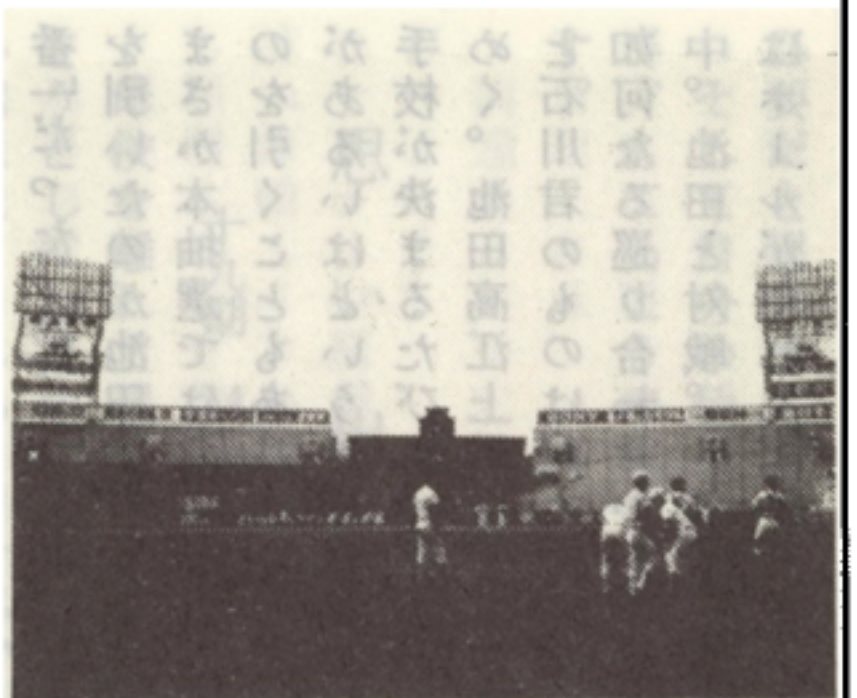
〔太田駅での壮行会〕

時三十二分発急行に狩野校長、小淵部長、原田監督、選手他、同行職員五名、朝日新聞記者、コーチに元野球部中村久男氏（サントリ―勤務）の総勢三十八名が乗りこむ。見送りのごった返しの中を一路甲子園へ向け選手団が出發。緊張の続いた選手達も、車内では

ほっとしたのかカセットを聴いたり、雑談などでくつろいだ様子。東京駅では、十一時三十六分発ひかり87号を待つ間、各テレビ局の取材班のインタビューを受ける。西東京代表の創価高校も同車した。十四時四十六分新大阪着。ホームを降りると群馬県人会代表の人達の歓迎や激励を受ける。この日の大阪はうだるような暑さであったが、ここ大阪では連日このような猛暑が続いているとの事であった。四時頃西宮市の宿舎三福旅館につく。夕食までの間、選手達には自由時間が与えられ、六時三十分夕食。九時監督、コーチ、選手のミーティング。十時選手就寝。あわただしい一日が終る。

八月四日、六時起床。全員で甲子園球場まで散歩。七時朝食。午前中選手達は用具の整備、午後尼崎記念球場で二時間半の初練習をして夕方、宿舎へ戻ってくる。宿舎の風呂が小さく、また洗濯機が一台しかないため、今日より近くの銭湯やコインランドリー利用の許可がおりた。

八月五日六時起床。トレーニング。念願の甲子園球場での初練習、各新聞社のカメラマンがしきりにシャッターをきっている。練習時間は二十分と少なかったが



〔甲子園球場初練習〕

所定のスケジュールをこなす。練習後、選手達はすぐ球場からバスで鳴尾浜野球場へ直行。ここで二時間の練習を行ない夕方、宿舎に戻る。

連日の暑さや、慣れぬ先での練習等で、選手達は疲れが出たらしく食欲のない者もいる。しかし、宿舎での選手はリラックスした様子で音楽を聴いたり、暮をさしたり、本を読んだりして過ごしている。職員は現地入りした翌日から仕事を分担し、選手に同行する者、球場応援席の入口や椅子の数、応援バス駐車場の様子や球場までの徒歩時間の確認など忙しい日が続く。

八月六日抽選日。部長、監督、選手七時三十分宿舎を出て、新朝日ビルフェスティバルホールへ向う。十時すぎ抽選会場から宿舎に八